



能
諧
類
能
集
卷
二





俳諧類集二

知

千代

古乃子の具松 露為 秋
子と祈 うし名 いち初去

毛紙いふふ 丸らな

千代まろく

のふあわの

よ



千早振

千話

後文
綴の具

それゆへに二神命巡國柱同會一面
阿久利一まねわう他も巫山の神女長生殿
のさうりこと皆是る話のたひひぞう。そこの
か女のうへせられとせられと云もふまじき
千早振 神樂の鈴 白木綿 悟気
小社 三義豊

万葉にちるる神のつとものあふへー今もその
あけつらばとほとほとせとせとてそののさうり
おとあつあつとほとほとせとせとてそののさうり
の甲にあらまうとほとせとせとてそののさうり

千年

松壽松虫のも けの義
兔赤小別 返ゆ杖

くらくらふふ年とせぬわけてつとものあふへー今もその
くらくらふふ年とせぬわけてつとものあふへー今もその
くらくらふふ年とせぬわけてつとものあふへー今もその
雪中深しとせぬわけてつとものあふへー今もその

千鳥

入江の月 霜秋 塙風 雪の沈
きんがね 白とね 尾のへち

姉り通 芦田 芳 ありー 志愛の浦

橋立 小嶋 大舟 丹後 湊 吹上 の渕

志川 鳴海 深 くらま 磯 津茅 糸 楸

十島の實 八戸 天の川 宇治 河 淡路 渾

酔けりりく 屏風の裏 くらま 志愛の浦

酔けりりく 屏風の裏 くらま 志愛の浦

のちぞと。仍基菩薩も西の塚かられども。
味もくちりくちり舞牙いふ所のまねるなり。神も
のちりとらまの義農と遊ばの塚とや。竹いを
のう根のわりのまねに。ありの背戸まて生かすじ
城郭とや。矢の標とみごさぶ菜とたたくも。
もえま。地とわくも。あまのまねに。色村も。ま
親も。いふ所の。隈も。仇の。まねに。かろわとや。
うまひかめと。あひ人の塚と。まねに。地と。清
さり

地福

乱基 小田のむらあ 緋染 百怪川のけ 堤

地秀

おろ 古澤 権寺 过堂 墓原
さいのほふ 五蘭盆 炎魔 舞
壬生 わさこ 老の飯 親着 木懐 桂
かだせん 山科 伏見 香月
常盤 五七日 地うら 教園
地秀のあて 墓とすりし。砂石集に足せり。
あは中の焼が地秀と。法向一。くれい。あはる。い。
い。られ。い。あ。す。や。又。紙。す。た。死。て。よ。い。は。

アハ地秀傳にも。り。じ。ゆ。と。わ。た。に。寢。お。集
に。あ。り

茶

元月 松茶 初がけ 初着 各苗
親の目 彼岸 目さし 酔さし
清久 弱ら 鯉 全三目 舟 年寄
食は 居ぬわさ 祖母 親うさ
枸杞 大倉 梅の茶 趙刀 丹波 宇治

茶能散阿とのふも。ん。ま。と。ひ。煙。と。う。わ。び。か
ゆ。る。既。酒。と。う。人。い。う。く。茶。と。飲。も。と。う。ゆ。ん。ま
茶と。ひ。う。あ。ら。ぬ。と。作。り。て。あ。る。じ。と。ぞ。東。坡
煎茶歌 蟹眼 已過 魚眼 生 鱧 々 欲作 松風 鳴
と。作。り。陸。羽。の。茶。経。り。鹿。全。か。茶。歌。わ。り。焼
祖。茶。の。飲。物。も。あ。ま。の。者。茶。と。の。あ。ら。う。け。ふ
な。あ。と。の。ひ。作。と。り

茶屋

焼豆腐 うらめ わさこ山
信濃坂 祇園 小野 わがり餅
松崎 津 渡香の庭 神松のえん目

信濃 伊勢の明星野 四葉河原

之の遠山 下原 藤の昼休

のかりに息をとりていそをたむけり

海を舟よりたぐりてうらみのとらふ

念ふ言ふいづれもいづれもいづれも

茶をたぐりて御座の人とたぐりて

厚く癒癒のれとわいそをたぐりて

ゆりて

茶碗

信濃 鉢扣 大津松

極楽も定むる堂の不作とて

さうて田舎の茶碗をいづれも

わらわくすすびてすじとる

さうてわかれおれのさう茶碗も

茶碗

お玉 放下師 湯漬食

于飯 ち繁 俣方里 長湯 瀬戸

盃全が茶経云下碗喉吻潤二碗破孤悶と云

いそをたぐりていそをたぐりて

いそをたぐりていそをたぐりて

いそをたぐりていそをたぐりて

挑灯

煙入 送葬 月夜 約港 躍

孟蘭盆 わり骨 津橋 糸

天満糸 夜ぐし 大海の糸 糸履丸

親世をたぐりていそをたぐりて

挑灯とけいそをたぐりて

長者

お茶 百灯 山路 池田の宿

茶子の調 月蓋 海達 東寺 山崎

星の門に付く長者のさう

上さう長者のさう

さう長者のさう

さう長者のさう

父母

親はは流もとの奇 死の義

顔後、父母の二字をさきて反切とせり。若相
悪い父も勿母もあつうや。浄飯王と父也。摩
耶夫人と母して釈迦は。乾為父坤為母とい
周髀の語や。あふれふぬく等のあふひいぶ
とをわふ母とぞわふ。

初使

律の 堂塔の供養に 王伯りり、 冥佛
冥社 因幡堂額 叡山大舎 小幡治
養老の法 白契の律 小幡 文意の母
名僧賢人 窟堂の翁 楊も妃の玉在所
りや難のくふ因位を供してせむいへも出門
もりぞし。さらつゝのあふ母のくふのきこのさ
ぬさつりりあふわさの切あるわさりあふ。ま
条の初使としてすさびの冠とゆふさつりらる
ぬかり

児

梅 齋 山等 文殊 祇園の
ふ家門 祿 ひとの山 三井寺
仁智の 天玉の糸 医師 法師
長老 老てほ
ち院の法華堂深の借書も西とざりて上
人の位を下りのりも。桂戒律師のなまひひ
梅あつらふや。老葉子と眼あつたつれに二親を
をどなるといへし

中間

二仏 耳ふさふ もを 足極
人足堀
は番侍のせい石とるひ本とるふとるさ
るるや、御湯あつくせとてかりまけふ保くや
あ陣たぐひよんといふあつたつてあや
し。あ勤の上下あつたつてあつた

カ

佛社の如法かふあつた車弓
二王 仏法 象 川童 相模 風
るてこ 病人 とも湯 親者 紙くひ
牛の角と換へる蓋貫へ千鈞とわく内夏前

とや。山を捲く人といひは頂。口をわがけは焚
膾炙カヤといふ事にして天地を初といふ事な
かり。カヤといふは伯王のわが。南麻の躑躅
野見宿祢那都羅善雄いぢの大刃ともなり
新いづかぐさといふのや。糸のや。甲のまゝもとい
さう。程のまゝすりうちといふ。あつたぬかといふ
よ。牛の力い首はもての力にいらぬともいふ。ま
ゆあにカヤといふ。あつた力まゝといふ。佛といふ
まゝといふ。カヤといふ。鼻邊舟と論語のまカ
つといふ。

智恵

文殊 舍利弗 般 下主女
日中 芥子 芥子 芥子

年寄 鼻の先

悟のろよの智恵もいふ。あつた。あつた。あつた。あつた。
福德智恵男といふ。あつた。あつた。あつた。あつた。
仏といふ。弥陀のあつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

沈香

枕 おま入院 忍ら大 雷
華礼 仏壇 守仏

仏入滅の両梅檀沈香の新わつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

丁子

燈 練茶 漆物 双枕

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

帳

執を 加 間魔 普法場 蚊
帷子 軍場 市棚 向屋 仏糸

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

ゆり

知音

知音 傾城 名れ 倭家
火のるき

知音の場 傾城 ありかた 知音のまじり 知音の
知音のまじり 知音のまじり 知音のまじり
知音のまじり 知音のまじり 知音のまじり

契

契 契 契 契 契 契 契

契 契 契 契 契 契 契
契の場 契の場 契の場 契の場 契の場 契の場 契の場

契 契 契 契 契 契 契
契 契 契 契 契 契 契
契 契 契 契 契 契 契

乳

乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳
乳の場 乳の場 乳の場 乳の場 乳の場 乳の場 乳の場

乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳
乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳
乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳

血

血 血 血 血 血 血 血
血の場 血の場 血の場 血の場 血の場 血の場 血の場

血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血

血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血

血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血
血 血 血 血 血 血 血

かりの... 亭とわびてを多... 俗名のも... 物の... けい... けい...

塵

琥珀 世世 産産 古色 塵 垢 樹 園 溝 罪

市場 常夏 大海 走 松 笹 塵 四 辻 ちびや みけり 登

堀川 細工 あり... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや

風... 火... 管... 尺... 蜻蛉... 幕... 蕨... ちびや... ちびや...

ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや

髪... 布... ちびや... 蛭... 炎... 糸... 裾... ちびや... ちびや...

ちびや

毛... 繩... 革... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

ちびや

柳... 楊... 枝... 砒... 石... 鏝... の... ちびや... ちびや...

ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや... ちびや...

遠チカヒ

花乳 菜羹 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄 笄
目解 天堑 舞袖 巨
文字 自利 夏冬 中意 帆卷
川激 舟引

中由の初めなるの庭とて近に近てことと云うひ
物も近に近りてあるものなるも近の初めなる
よるよるしと云うものなるよるのよるに坐れつと云うも
るよると人のよるよるものなるよるものなる

近チカ

親親 服を 近り つらね
連衣は 各々の月 火より

極樂

薄尺も遠きも増のうとすめりは年をさすこ
いとあつとせりつらねつとていふものあり
富士のふいふとていふものあり井田のふいふとていふもの
に立てよとていふものなるよるものなるよるものなる
りつとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
とていふものなるよるものなるよるものなるよるものなる

散チル

花も 霧のふ 木の葉 湖の白浪
丸の紙 埃 焼火 雲 蟻の子
風 躡 膝抱の茶 灰紙 敗軍 逆足

金銀の粉も散りていふものなるよるものなるよるものなる
雲いとわぬぬとていふものなるよるものなるよるものなる
うはじとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
こはしとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
さうとていふものなるよるものなるよるものなるよるものなる

をまき

移る人 情の袖 衣は衣
わきまの心 移る人 移る人
移る人 移る人 移る人 移る人 移る人 移る人 移る人
もまきのうとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
うらまきのうとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
これとも鼻紙もとていふものなるよるものなるよるものなるよるもの

近チカ

わらわ人 極き契 結
くらくら 仗 くらくら くらくら

近之則不孫遠之則然とていふものなるよるものなるよるものなるよるもの
人の交ひ 離れのよるものなるよるものなるよるものなるよるもの

大和の二名びらりのかきくふくふくといふの
名も

石所

ふ代古道

城 平月の約子の口松
多葉 中幸 折川
さかの山 若きうら 須原夏多の若
松も相

ふの松原

近江 若く代 百色 若
契 目か武る 若
百代 花十より

ふの海

伊勢 紀元 紀の海
若の海 貝いり
舟波 若く代 柳系 若の代
され石 若尾の若

ふの山

若根に別る若 まさこ 松
豊のわり

竹生橋

近江 或ハ筑夫橋 あり
朱のむらさ 志賀 白糸
能 能 能 能 能 能 能 能
白蛇 仲算が伝童 経巻と川心

筑摩川

信濃 又在常陸 され石
三つ世界の眼のわり 十二國海の心表
入江 氷 わのうら 系 若の若く若
若けのうら 若の若く若
城の若く合戦の心

ふの塩竈

京ガ、 陸奥 或血麻 鴨
みらぬ 若の若く若

ふの浦

千カノ 肥前 或筑末ト云 嶋
みらぬ 焼塩くつり
若の若く若

筑和

聖唐 妙徳川の鯨 常
金邊 蛇 枯多 鎌倉 松尾

為紙お 芦屋金 名産塩 筑和

志雄の文 志雄の鶴 刈草の用

金の山 志雄の松系 志の九敏

お金山

筑好

紅花 洪武様 三条鯉

三洗 賀野多 海草 塩鴨

一夜川 志也川 建良の里

和

龍

駒 燈 象戯 早杖 岩 魚

流砂川 猿次 沈 祝多

神白丸 湖多 天のうま 羅漢

仏の経法 築田のり

おふりすけは民のあけさしぬおはては八次王
と藤盛多におり。一角仙人西寺の守教
封せしは筑骨車にお車。筑腦ハ菜。筑臍ハ
菜とおし。

筑王

将基 秋如の況法 魚乞

長目野 神白丸 勢多

面不背の玉は筑王のぞし。海筑王の石

ふたしんておきけいハゆ右の入るが娘の
おんもの神にお五うわさるそけ
お底の和布刈とや。筑王あくといは
お築よりお築王薬丸さけハ神あの本
てのらし

筑文

お姫 玉とくら 魚乞 津多

箕面 釣針と巻 秀才

つぎ 妙茶 神泉苑 香天寺

うら 玉舟

ちぎりおあけうめさきけりそまつり
娘おひいおとせうととあつ沈おと
之のあひは死人といわづとら。如意宝珠

不言而信不戒而行といひて世の今の律儀の
下。六弊とありて一は田舎の類もあつた
七。賣買の市は律儀なるといふは
鈴 花釋目 勅行 虫の毒
釜の湯 懐經

葬の祖傳は法寺の偽りて廻向しつゝ人の
とらりとするの年のもにせめてあつた壇
とあがり護摩と修する祈禱又の施餼鬼行の
の場にはちあじゆり

利口 商人 邦家と云ふす 花女
占師 盗人 公のり 壱拾

入れの湯より善後をわ物ふらると利はあつて
いふゆゑ。和化の法同自安をたぬに於て
わものそ利口のちらにあらせり。わものそ
ららるるもいふるは亞聖の条と云ふれも

條終 老軍場 名偽
親教 落城

性生もあつたといふは西風雷電の人のまじり
かうあつたといふは侍のついでとあつた
ちあんとあつた

靈山 佛の說法 ところ 國阿上人
菴佛 ひや 黃楊 双林寺

信あり 三年坂 八坂
仔細系とせんといふ必要して國阿の法教と
し。わごと秋といふとくそ。老と教と教と報恩と
天狗を集り。目前は靈山の神と教して人ぞ
也。美日山も靈山と表しとつと風といふり

右所 琉璃 いろつじ 三味線 ありや
蘆木 蘆鉄 薩戸 色取

門 大和 山形 布衣とす 仙人 鯉
名分ぶまぬ 芦田 櫻 桃の花

湖の白糸 琴 常盤 出糸

主

古津 秋の岡 高在 赤木 家
塚のナニ 乃 眞 盗物 城人 魂

守佛 荷物

家いふらうれいさのつとむことい世話よいらすやぬ
しあふぬ者しそあふし秋の葉ふたふぬさう
けいあらざるぬともあふらわらぬと聞ととも
わら海ふらふとに今せばわのわらうなをそ
多しうらふ心候のをもさ衣ぬや彼とととこ
つとらあふていとも

盗人

箕子の竹 犬花 近江 瓜
ねえ 兵乱 武蔵野 志墓

赤坂 立田山 宇治通 庚申 甲寅

市 獲たさ ずら山 蜜夫 焼亡

人群集 屯の枝 傾城屋 飢饉年
少人有勇而無義為盜と野人のさうひい老
而不死是為賊以杖叩其脛ともの後りぬす
人のさうこのひい入にんあふらうのさうやけが
まん柱女白栢子らわらぬ盗人る物とそ神社
は園の系流群集うらこいかにふたすむ

盗

人の僕より 人妻 花陳 焚市
人の僕より 物類 比さうの 基

君のさうの 卯花 礼也

人の僕より 乃 其 趣 向 と ぬ 子 心 じ じ 心 ぞ 性
詳 御 閑 学 政 年 作 一 六 程 氏 之 名 著 以 ぬ
す とも 密 契 の ぬ 外 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
此 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
日 の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
す ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

陰師

朽木 根来 ねえ 眞是
松作 内裏 普作

ゆ 幸 ぬ ぬ ぬ ぬ 車 と 作 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
力 脚 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
い の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ま ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

陰物

磯 電 白粉 漆 敷の 墨
新屋 髪 の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

矢 毒 と ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

居士の襦袢 虫食紙 鬣 角 尺 貫
 笛 蓮実 銃 城貢 石臼 螺貝
 耳鼻

禁中に穴門を穿る。穿ハ菓の穴より入りて牛ハ
 鼻から穴へ通りて毛をこぼす。こぼるるものこぼ
 てわらじとてこぼれしやうと云ふ事あり。昔に
 不實と家語をこぼし大してこぼるる事あり。あ
 られどもこぼしやうと云ふものはいらざる事あり
 ちるねのぬけのこぼしなり

三糸の糸の積 仕懐 石雲 紋紋
 結 襦 ちの糸 巾の糸 天の糸

ほろろもいふやうなるもあつた。招魂の法と云ふ
 にかつた。その法ありと云ふ。捨芥は驚愕の所より
 引とり我垣りといふ。いへんまをさしゆつた
 まもわじり草葉集とて云ふ。そのこぼれよりのた
 ぬけら。よきよきもなほなほと云ふ。そのこぼるる
 けささうつらんも袖中かきま

襦スエ 笠 小袖 首 たりわ 襦 遠口
 帷スエ 帷 褌 裳 裳 衣 袴 袴 裳

荷作り 純惟子 足皮 ことり天
 膝の目

論語 扱齊并堂鞠射也注 齊衣下縫也。百
 官に縫ぬあり。うしそり初まわり。もをそり
 りのこ。礼記 古者社者繡維合也。維維と云り
 巾のたる條のつらふ。なをぬ我をわひが
 そのこぼるるぬ

蛇の衣 笠 鳥帽子 甲 具 笠
 衣 類 若竹の皮 頭巾 肌 扇

解脱 草履 草鞋
 解文の解脱とけくは思業煩惱と云ふにこそ
 わらじと云ふるや。解も皮なりと云ふ。蠶
 のわけらと云ふ。綿やたしなわらじのこぼるる
 さるればわらじの志あり。今わらじか

竹の子 衣の油 人の目 齒 杖
 商刀 服 拵 額 腰 袴

鉄炮 矢 落城 篁竹 偽 鉄 鉋
 袴の袴と云ふ。鉄と云ふ。袴と云ふ。人の目と
 もらう。はり。小田のらむ。はり。はり。はり。はり。

右林木の釘に初はくくるより少しづつ鹿角の膠
 わさくさくさくすよけせ

石所

布シシ織シシ

折津 生田 天の河 七夕
 夏のこそ 後の 四季

天津ツルの如 夏衣 山姥 白雲 有雲山
 のこの山 芦屋の里 雑岐 尾松

花梅梅 紅葉 萩 蕨 尾花 蕨
 白糸 綿 呉竹 魚津 ちんちん

菊 小樹子 栗のたまご ちんちん

毎

流人

とことん流 酒の旨や 芦花
 かくとくー つきかぐん 江戸

りちちやきせ 上佐の粗 大崎 陽気の橋

鬼思キカキの橋 作後の橋 三熊クマのいり子

祝するの種のを ちんちん 将衣

流の師 率ヒラキ松葉マツノハさぐー 権後の松山

八十ヤソのけりて 僧舟

後の優婆塞ウヱパサイケ林ジジ由も 鎮西八郎チノシロが 精共セウキもさ
 くれーとて 流空の懐衣ヲイへ 日蓮ニッレンの仇後ヲノシへ 天林テンリンの
 後ノチにさへさるゝ奥列ウケツラへ 出東中デトナカのあへりちんちん
 流リウ戸コよりくくれーもさすー人のむろりても 捨られぬ
 秤人ハカリいさぐーのとかなん 悟美ゴミうらともしさぐー
 のちんちんや

流浪

みる子 流人 昔のも 塾
 雑風の松 まいひ子

すべて流人リウジンもむくーくれた 萩の勅旨テウシメしす 萩
 知れとてうらむいれれりしれりてとすれりても 伯夷ヒクイが
 伯夷ヒクイがうらむくく之ノ権ケンが賢ケンがうらむ今イマの人の目メ
 の流浪リウリウもものびりてくれと更マシにうらむかやい

毎立

十月ジュウゲツの社 年トシの 錦織ニシノオリ 旅
 美花ミハナ犬イヌ 美ミ花ハナ 独ヒトリ信シブ河カ

竈夫 同人よりなる 城 大なる事

燬の里海 火の利か

俗語にせむぬして... 燬の里海 火の利か
ざうろ女院以上の山まに... 燬の里海 火の利か
まゝの天系の屋室... 燬の里海 火の利か
て由宿いふ... 燬の里海 火の利か
まそのまゝ... 燬の里海 火の利か
燬の里海 火の利か

暖燔

萬年 月ま 焚燔 大地 天朝 不

晋武帝坐上... 暖燔... 焚燔... 大地... 天朝... 不...
人の富り... 暖燔... 焚燔... 大地... 天朝... 不...
琉璃の盤... 暖燔... 焚燔... 大地... 天朝... 不...
グのまゝ... 暖燔... 焚燔... 大地... 天朝... 不...

類

病舟 傍者 盗人 科人 火より交

類縁... 類縁... 類縁... 類縁... 類縁...
類縁... 類縁... 類縁... 類縁... 類縁...
類縁... 類縁... 類縁... 類縁... 類縁...
類縁... 類縁... 類縁... 類縁... 類縁...

遠

女即花

野の月夕 夢 けり 野

衣織 姫 けり 野 伏 里 楓
るより 野 楓

おりのま... 野の月夕... 夢... けり... 野...
おりのま... 野の月夕... 夢... けり... 野...
おりのま... 野の月夕... 夢... けり... 野...
おりのま... 野の月夕... 夢... けり... 野...

荆

山 里 の 丘 蕨 埋 水 藪 佐 山

山 里 の 丘 蕨 埋 水 藪 佐 山
山 里 の 丘 蕨 埋 水 藪 佐 山
山 里 の 丘 蕨 埋 水 藪 佐 山
山 里 の 丘 蕨 埋 水 藪 佐 山

鬼

馬塚 美野野 念身 大和

南敷 野老 檜の末 わざま 桐子

百合草 石葛 蜻蛉 桑の皮

首分 月うらぐら 地獄 罪人 西比奴

女 細葉がり 大江山 珍麻 毛楊

戸うじ山 羅生門 篠田の妻 ねね

わさのふりぢり 徳 鞍馬山 ねえ

西菩薩池 面 湯圓 人の心 雲山

大巻 くらめの内 女 ひびき 岩屋

ほまき

古今序より小見くぬ鬼林ともわれとをり
着も木も我大志のふさねいづつり鬼のすまう
かりづ。是いじり一修業の鬼の人と接すり
まうにびあにりてまもるやまにまこも。つま
まに修業のまより女のおわありつらとあそが
つらとま。若丞相はまのいあては儀一鬼と
れり。鬼とや一いふくはてらりて修業物様ある。

まのむにすにのりのり鬼とも。夕色よあん
てんのおのさつりのおとといひやうつらたあ
つらとま。おわありつらと鬼のつら。元三大師の
れい鬼の飛く鬼の指する宝うこれあつら。修業
おの小徳ともるせり。三人の魔王美女とあつら
仏のまにまると忽鬼の深を教へるも仏の
神也ともや

女

とを竹 車山 塚 ちぢ山
鬼 方仙 葉平のすまこ 源氏の糖

丸丸丸 関石 三備神 張勢屋 美屋

カブキ 假名文字

大はえ三升の雄鶴尾虫守の上の醜助と女
と禁制と。女はこの家あつらまもる。はぢり
てつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。
あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。
人もあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。

天上舞 くらこの海 三保の浦
乙女 袖の山 天津風 きのこ 竹たわ

田人 系元 吉野 徳氏の妻
徳のついでありて出づたまふもさうびうゆり。
ふゆと女のこゝろすゝら切の石はまゝとや。百葉は
まゝと石松浦はうゝあかゝつゝいゝのあゝのあゝと
めうゝあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
ゆきれいゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

乙卯花

あさうーあがのね云 壬午 乙卯
金 花柳 花 糸の結び

おあうつゝとあまど新てりてあまびののあま
のうらゝるあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
白頭深目あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

踊

馬 雀 胸 脈 舌の頭 ぬえ 文字
測の魚 鴉 猿 早一の卦 小さう
これぬ小刀 伝言の杖 阿宗の念

山王祭 神輿舟とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
酔のあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
わのふらふあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

逢月

初めの月 後 菘の中 葵の花
あまうと浦ぬ あれまもも

おげとて狂をてあひまうとまの俺とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
又川とのわの舟の息とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
鶴はあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

死者

池あり 芦へ あり水向 冬乃月
若根の山川 乙葉 糸衣 尾

池ありとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

小の巻

後の女 三橋の里 焼の獄
苗代 のと

農人のいゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
心隠居のあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
めうらとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

控

質美月 占く 高れ
市の場 寺社 四郡 武家

女主人町内 いろいろ基

秦姓皇の三千の法制も漢よりいふ三めして治り
あり。葛天氏時、不言而信不犯而行といふあり。
陣の陣に在りて、同とついで、寺に在り
先例ともいひつるもの

押

中判 後 人 群集 門戸の礼
私の禮 初め 糊 冬宛 鄭

酒弓 針立 行列 も 船 上も 藝

目白物との場 腕の力 ところ 家

鯨 いろいろのり のり 虎 のり のり も 下り 下り

四月の毛ひく、餅とす、陰の舟とす、すの

大力のわざとす、とたくと痛す、賈嶺り

分り

俵

呂琴 双六 旅人 かも 収 ねる 糸子
軍 亡人 馬 木の 葉 どの 葉

弟男も た乳

花の枝の回り、うろめ、いかに相模、とるを
これら、うろめ、いかに相模、とるを
以後也馬不進也との孟之反、う不代河、のり
舟の葉のきさ、いかに、うろめ、いかに、うろめ、いかに

送

狼田虫 疱瘡の邪 風乃邪
聖天 鼓の音 文字 官位 娼

元弘 年月 違お 後のものわさ

お基のよ 玄因 かなさう 転た

旅立 經 右 腕

徳谷の死骸、いかにとす、送、いかにとす、
いかにとす、送、いかにとす、送、いかにとす、
いかにとす、送、いかにとす、送、いかにとす、

も信

松風 紫段 尺八の云や、きん
隣らの禮 ぬまの石

いかにとす、送、いかにとす、送、いかにとす、
いかにとす、送、いかにとす、送、いかにとす、
いかにとす、送、いかにとす、送、いかにとす、

修験の流よわ

恩 父母之君師 聖人 天祀

後の侯の恩重純 ともく 親の恩ハ量初て
お居ともほしくうらん。六とら多のゆかり
のたさるる二世の初や三世の初恩と作る意ハ
いし心為恩使命依義輕しく願依ゆる恩賜
御衣今在此持持毎日拜餘香とお野
とるや

右所 城山里川滝 柳橋等

音羽 かくま 木綿附も 白雲

ゆよき 初幸 宿若くし 卯の巻

志賀 ひと山 蛙 名虫 廣沢 清

醍醐 山科 法園 若松 池 紅葉

お飯の美 大津の文 松虫 白川の美

お乃中山 衣うの 古乃焼物

鳥 竹のあり 地蔵行現

小倉 同山野 岑 麓 寺 福

二学院 戸 大覚寺 文蔵 長

百人一首 鳥家山庄 かくき 藤の

お湯の松 わるゝ 秋遊堂 椎葉 麻

花鳥 響虫 馬 号 蝶 蛸 珍虫

袴衣 照射

小野 同山里 宙 汲 乃 篠 原 大原

炭竈 古道 細乃 氷室の橋

浅茅生 醍醐 ひと山 山 山 山

男あり 藤の文 乃 風 小町 瓦

維多のひ 乃 舟 山 山 山 山

鉄薪 修験 山 山 梅 橋 紅葉 麻

加衣 竹 乃 乃 乃 乃 乃 乃

麻 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

小塩

山 大系 小松系 橋 津代

維子 中津 福 松 花 松 子 育

炭 電 豊 松 紅 系 麻

畧報

近江 杣 久 木 川 板 渡 山

小比叡

津 垣 岸 横 川 徳 天 翁

伯母弁山

信 濃 文 軒 賢 月 時 習 祝

小嶋

陸 奥 或 雄 嶋 磯 崎 壘 溪 翁

音云

紀 伊 山 川 浦 王 徳 豊 子 丸 翁

生

伊 勢 浦 海 河 漆 橋 麻 浦 色

小笠原

名 字 仕 行 子 逸 也 出 牧

尾張

南 海 乃 示 大 根 藍 玉 綿 用 方 鏝

松 風 の 星 星 崎 勢 田 の 系 八 羽

隠岐

海 崎 和 布 串 鮑 嶋 桐 海 翁

素 板 灯 松 小 嶋 後 龍 松 流

和

若菜

若菜ワカナ 春の節に人若拂ふ神 去日神
山後カミの垣イね 生ナマ面オモ みるの

初ハジメ系ケイ 衣イの音ネ 求モト塚ツカ 源ヒナ氏の事コト
始ハジメ元メ服フク 澤サハ

若菜ワカナ 春の節に人若拂ふ神 去日神
山後カミの垣イね 生ナマ面オモ みるの
初ハジメ系ケイ 衣イの音ネ 求モト塚ツカ 源ヒナ氏の事コト
始ハジメ元メ服フク 澤サハ

蕨

片カタ山ヤマ畑ハタケ 和ワ山ヤマ 谷ヤ信シ 去キの神カミ 山ヤマ後カミ

後キミ春ハル 繩ヒキ 第ダイ 非ヒ興キョウ 芥カイ 菜サイ 衣イの音ネ

餅モチ 新ニホ坂サカ 華ハナ礼レイのノ 伝デン 亦モト 雲クモ 旨クシ 湯ユ 湯ユ

結田

四シ皓コ食シキ之ノ 而シテ 壽ス夷イ齊セイ食シキ之ノ 而シテ 天アメ 天アメ 天アメ 天アメ
のうらなひのさうらびといふをそとこれかき地紙
うらなひのさうらびといふをそとこれかき地紙
うらなひのさうらびといふをそとこれかき地紙

菜

去日野キヨノ 武藏野ブサノ 去日野キヨノ 武藏野ブサノ
雑雑子子 柳柳陰陰 牛牛 若若湯湯 湯湯

懐懐淡淡 葉葉子子のの いりこいりこ 薰薰

うすうすたるののみりのりるまゝゆきゆくゑる名
のしりしりのえがいのれりるまゝゆきゆくゑる名
うすうすたるののみりのりるまゝゆきゆくゑる名

菜

銘銘粉粉 冬冬のの 菜菜 菜菜 菜菜 菜菜
軟軟滑滑 牛牛のの 葉葉 葉葉 葉葉 葉葉

菜菜 菜菜 菜菜 菜菜 菜菜 菜菜 菜菜 菜菜

半半葉葉のの 餅餅 衣衣のの 音音 衣衣のの 音音

あけくしと焼て灰とあすの衣のりるまゝゆきゆくゑる名
あけくしと焼て灰とあすの衣のりるまゝゆきゆくゑる名
あけくしと焼て灰とあすの衣のりるまゝゆきゆくゑる名

かみりつよりくひかき舞丸の阿も極入の形も
門火とてくうよりさきもいふ舞とてしるひを
ものごふとを

葉卷

弓丸 碧衣 九合 葉巻 葉
卷 色公 燕の巢 細代 流人
葉巻者の極込とてさきもいふ舞とてしるひを
かみりつよりくひかき舞丸の阿も極入の形も
門火とてくうよりさきもいふ舞とてしるひを
ものごふとを

忘草

傾くの家 報返子 水堂
其の中より月日 蛇のわが入

後凉教のいふさふとわたりてわらわさふと
さふのさふとわらわさふとわらわさふと
周詩馬得萱草言樹之背今これを忘草と
のさふとわらわさふとわらわさふと

若和布

磯波 廻去小舟 雲の橋
酒 仔細糸文 悟気 唱後

若和布 絹衣のい 樂阿弥のねん
若和布 絹衣のい 樂阿弥のねん
若和布 絹衣のい 樂阿弥のねん

綿

若人公 奥わらふ 切疵 昔の徳
雛 鮑帽子 菊 陰打石

若人公 奥わらふ 切疵 昔の徳
雛 鮑帽子 菊 陰打石

若花

右今一々 藤寺 代若 踊
楊枝 秋舞妓 ひどと 紀の主人

酒盤の的よりさきもいふ舞とてしるひを
ものごふとを

此遺書... 入院... 改... 命... 命...

服

連衣 斬衰 桐槨 大許 汗 少の袖 章門 立像かき 泉

湯 三幅一解

阿彌陀... 老子... 命... 命...

服指

舟の樽 章門の針 垂論 勢釜 小袖の尺 輕 勅を

松板 立死のあ お基の助云 袴... 袴... 袴...

就書

も根 へ角... お基 矢新 麻袋 深山 信走山 挽波根

夷千尋 酒首の二上山 平受... 命... 命...

往來

閑所 盗人 縁人 傳乞食 息 空樂 けり... 逸訓 風月

悟已往之不諫 知來者之可追... 告諸往而知來者... 先舟... 陸...

鱗

堅田 鞍 空也上人 松尾 誇文 危さ 命...

韓愈... 鱗... 命... 命...

も終てありたり

破子 夜野 縁路 野陣

我といふはもとの心とあるはしつとつららかりなり
こゝろりん又此虎日記に今わりのおせえある人
わりとめん多人おんかりおんせりけりありま
はるやういとて

籬 天水 川除 井園地
三茶五茶の楊の春石の籬とたわらむらり
又家の山坪いひりりてとるはは後年のい
ふ小麻草とてわりる者とうもさうさ
らりたりとてとつとておさひり

輪 月桶 製袋 車山 後 後鞍
勢馬 咽喉 取膏 有 掛合
後法 炭 山雀 鳧 鶯 蓋 的
抱つとて切大根

犬とつらつらりて帰らるる人の鳴のきこはる
はありとつらつらるるは能く歸すてとる
や蛇いりりありてわん葉谷の鉄鑿とりてわん
羅漢の耳の痛も以其耳漫無輪故号曰聾
とい老子のり

茶 旅 登 井 仁 玉 門 田 山 階
柳川 三 舟 幼 葬 礼 日 傭
ありたり中死人

百姓の農のひまをゆるりておておておて
川新お綱つふよは茶種あてはるる
ねとるやどののりらら八茶の運花とて
まへりともまも甲胃と若くははわりたり

私 押領 金
礼記 曰子婦無私貨 無私畜 無私器 不致私
假不敢私 興とてはるるはるるのり

かりりりり 検断ともりり大明無私とて文
はるるはるる

福 福の将 舌下このは
はるるのり天

如女傳曰仁除百禍。中庸生乎今之世。及古之道。如此者。幾及其身者也。陸陽師の荒。祇とて。晦日とて。山所の祭文。是禍とのぞく。とぞ。吳必とも。白沢の形。と後よ。さして。さして。と。さく。と。や。

別

あまの子 種の新 渾 差さる
経束 経束 経束 経束 経束 経束
まの月 命の除 命の除 命の除 命の除
張三神 三ぬく 三ぬく 三ぬく 三ぬく
暁 二月の仏 四月の川のあり
庶子 庶子 庶子 庶子 庶子 庶子
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて

おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて
おぼしとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて 三えられ 依えとて

笑

笑 笑 笑 笑 笑 笑
相云 下子 下子 下子 下子 下子
虎溪の橋 布袋 大恩 あいせり
さくら 烽火 維と射る 百乃媚
夕教の花 雲山 三か捨る 三を若
生子 小叟

樓西月向樓東 笑とて 何わり。骨肩而 語笑と
もとのり。買笑 未知誰是 主万人心 逐一人 移と
舞女と見る 詩人大漢 云云 三短表帝つ のよ笑
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし
ひて かくし かくし かくし かくし かくし かくし

よのけさげぬ

村徳 庶将 追奉る
門前の非人 偽後乞
上戸の存者 軍場 地づく 志あらる
蚊 蚊 蚊 蚊 蚊 蚊
夫婦のさうひの隣 わらりも 三三三 三三三
もまるとりともや 群集のをいびき 三三三

しんまふるいふまか。強盗のへる付いりりよ
と殺とらうらうらと

割 算用 荒渡の取 倉石 卵石
凌の解 竹 菊 碗 薪 壺 陣

甕とりてハ嬰児とて子け。後とりてハ瓶
とり。どのぶとけつりつととりハ勇まのさくひん。
松とりておわい下のあさこもや井田ハもと
とり付く。二十五弦の琴とりて二人の倉わさ
鐘子期が琴とりてハ知者とうまか

渡 舟揚世進物 合派 松檜 厩
不帯 太刀帯 科人 堂 燕

茶壺 佛經 抄り 普法 基の
祇園の山洋 位持 拂子 小書

一の谷小くくくく四圍よあそハ半家の門
天の川ハ年小一度星のわさわり 鞠ハ背
る。蝶ハ巢とりてつりもい木のるつる。如
渡得ぬハ花の文 衣後のさねとてハき働

蟻 桃の枝のこびりると蟻桃と云。蚯蚓とり
つりてまますあり。このよつれ等いりり
初九潜竜と昇つりも蟻とりてわらわ

分 奇のふりさうい 隠居 不あ世
前髪 菊極 子苗 中 丸 落

盗人の難物めんくくくく不食それハ飯
とりてハ初小まのじ白銀の味りる海入
海人の信とる。虫の場ハ其基菩薩の
い基憑の車ハ海とけ。犀の角海
とらわらわ

養生 慈心の書籍 秋 けり
徳谷 小のひくき 東洋の

春の心

未生申仙と云ふは、世と云ふをいへて
すめり唐の生れの物なりかにいへば、自西京
くくく齡いせいのは、永觀律師の生れの
十國と云ふありて

涌

泉酒湯 蚤虱蟻虫
鱧塘の魚

火中に虫なり湯の中は魚生する。注苑純曰有
無量千万億菩薩摩訶薩同時涌出と經
にあり。おとともおとともおとともおとともおととも
あのおとともおとともおとともあり

名所

若菜山

大和 美目野 三ノ丁
うらひす

忘る

播平ニ大和橋津ニ同名ニ 淡沢
つらつ 匠者 舟倉

輪田

ワタ 橋津 義盛 酒り入 江戸
あつとのお松 松野 三ノ丁

車松 (半窓) 兵庫 瀬戸 松野 紀宗
松野 平右衛門 松野 村吉 海老の松野
八十崎 けしあき

渡邊

日 ちのち 伊勢山 総子 競勝口
赤尾作 野

度會

ワタラヘ 伊勢 ちのち 又 津風 三ノ川
大河邊 三ノ代

若松京

同 塩の丁 海 色 ぬわさ ぶ
田島 夕沙 紀伊の海

我立松

ワカタウソク 近江 すみ濱の神 仙より 三の松
響の山 松の門 岩のちのち

ちのちの坂 若代村 ひろく 松野 町
松野の月 麻菴 湖海 堀の洞

若湯

紀伊 塩満 吉志 田島 海雲
片倉 りかま 松の松野 町

わぬの約年くらぶれき山月のお汐
麻尾藻みづまのわくほの明鉢
解上玉津鳴もまぬのた 浪きり
佐古入のり 捨舟 文柜 ちも
あつがれり 浪きり 浪きり
ちる かのりそ 志貝
ワカサ 拾履 小浪酒 鼻打小鯛
あ校 尺八鳥絨 若和布 荒布
石基石 名目老紙 黄ひ紙 推
鯿 耳塩の貝 彼焼筆 海山
三形海

加

厩

異名 二季も 言えき 月 秋風
秋の海歌 琴の音 ちり月

志賀比良の海 旗の門回のみ
舟路 磯山 ぼろ 紅家 森の露 文
衣袴 二寸の巾山 芦毛 蕪武 馬
長初地 ちり月 玉章 咸陽宮の門
越後 倉 葬礼 小斗星 伏兵 白雪
かたわらとわらうふにわらの赤く行くとらもかこ
も棲まれやふに秋とにかりくとあくとほ撰集
はうあり 園の赤く求合はらとを指とて赤くは
さうくんのふのあつひし 厩王がわりとらとを指
あらり 八徳を世に大厩とあまわらふ所
せうとせうら 老後らとあまらふ 遍照のふだ
平初まてとらとを指 厩のともくそり 草木黄
落分 雁南帰 とは漢武帝の詠と名 中ま
わくこの湯敷の上のらとを指 厩の足えつと
山火を山焼くそぬらせむひく山文あくとら
のわらうとらとを指 ちり月 柳まわそり
ちり月あくとらとを指 ちり月とを指

厩ぐね

質相 昆布の切目

かりのりもいねをけりんまきけき内ひき細
はふりつてせよのまゆりてえんうまぬ
あつてもゆりねのふたのうらあつて
らるるの風ゆきわひくくもむらたふ
ふあり

鴨 カモ 異名わらひくも ち羽 ち羽也
入のあま 山後水 かる川

大舟川 カワ 香炉 鐘車 沓 カッ ぬぐ
河原 雷の形 カミ 鳥の 仙人 芦名

物づくけきやの仲よりあのみまらりもの
かきとる心推しあきるとら内鴨をけき
物もあきしにたり 芝居川は流る 矢の鴨
の羽わくくもむらたふ

鴨 カモ 沖津和 ち羽の浦 風 芦名
はて けの君ともあつ 秤 ち羽

の君もいをわくは流るけきは神をわけて
依廻沙路潮落曉とも 至今白路背又飛と
とつくり

鴉 カラス 林垣 ち羽 森 山寺
夢の軒 市堤 松村 月夜 瓜

鳥 蛇 財 倉場 蛸 大舟川 鴉
鴉 帽子 死骸 国別 還幸 然非
文を海の山いありの社とて女 螺

是なあり 古及故 牛玉 目掃 疔
慈鳥復慈鳥鳥中之鶺鴒 天はけ
己半まのこをいふ人の死骸すまらわら
ひくくもむらたふのうらあつて
とふたりも山鴨飛ん水悠くともあり 群
鴉飛散下堂鐘とも 仍北人喜鴉声而悪
鵲声ともいふ人のあつて

蛙 カエル 小田のあひ 黄代 池多 舟のち
古泥 萍 春 秋 冬 玉川

佐の池 ちあり山 神の川 俣
佐の池 ちあり山 神の川 俣
佐の池 ちあり山 神の川 俣
佐の池 ちあり山 神の川 俣

カ
二
世

荷の系 仙人 丁あふ 蛇 蛇

延暦三年五月七日蛙三万がうり集りて三所斗
つちたりて類のち天王よまのりともと水鏡
にゆかりのいふといふもののあななる田ふらふこ
をまされぬはつくとねど谷川の濁さずおにのみ
くれて妻ふお蛭いふまのなり晋惠帝聞蝦蟇
言謂左右曰此鳴者為官乎為私乎或對曰
在官地為官在私地為私とくがらりに蛙張
強くつらつらとつらつらに御々の蛙をりてせ
めらりめてはらの蛙とをけせば蛙をばりて
子あらくまるとも越王歸心の付蛙おこるとり
つらつら

蚊

蚊 山田りる唐おのし扇
蚊がさや 蚊とわつれむ 蚊
荒行 指さるひ

そわお十市の里のるりたは蚊とつらとつらとつら
なりそら無蚊虫之利背と憎蒼蠅賊とそら
焦螟といふ虫ハ蚊の嘘ヲ巢とらつらとらつら吐蚊
こつらとつらとつらとつら蚊と吐蚊とつらとつら
そのつらとつらとつらとつら蚊とつらとつらとつら
あまにのつらとつらとつらとつら蚊のつら
とつらとつらとつらとつら

蜻蛉

日本の鳥 源氏の巻 小町
表あす

くげらつらつらとつらとつらとつらとつら
のつらとつらとつらとつらとつらとつら
くげらつらつらとつらとつらとつらとつら
つらとつらとつらとつらとつらとつら

蜻蛉

竜車 祇園まの山
茶刈 蛭

蟠娘 當轍 特長臂 演雅 詩よまへのつらとつら乃
疣とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつら
のつらとつらとつらとつらとつらとつら

貝

山阶 乱酒のつらとつらとつらとつらとつら
軍陣 時 祢り系 目茶 符後
飯とりとつらとつら 枚子 湯を 婦入 祭
砂浜 山階 後 其 暮石 律傳

魚物の附註のものは貝と云はれておるが、
祇園のふれは社傳に於ては、
関より貝吹と云ふ物あり、
久々の貝吹と云ふ物あり、

蛎

胡椒の粉と蛎に必り色し、
此立像の秋に蛎を分てわり

甲

烏絨 龜蟹 砒霜 烏足
鞞 鱷 易 易

甲物如扇其文如玳瑁惟三月三日潮風乃出
名海扇易盡卦曰先甲三日後甲三日

蟹

蟹は甲の甲の上をせりとも海中ニ有
ては、
出各井ニ穂とあり、
ありてその蛇と殺り、
占 葦草 痔 盗汗の瘡治

龜

龜無雌雄交匹はともや、
而脱難と放生の文にける、
約より、
松尾 岩下の殿 三具足 磯の岩屋
蓮池 浮木

鯉

社頭の棟木 楠 軍の首途 難着
相撲より 鎌倉の海 蕎切 浦崎
土佐 紀伊

生るるを、
つれば必を、
卿と云ふは、

祓

瑞籬 注連 枝 ぬき 祈

燎火 仏 之方 軍 湯立 至真の頭

疫病 竈 雪隠 貧報 福風

山 賀茂 三輪 大原 春日 日吉

出雲

目小見ぬ鬼祓ともわれともりせといふ乃
るま祓のとりたつてくくはともくは杖の事
なり 養蚕相い祓とありあり十月は祓の儀
とまつてこころ生れ子に氏祓へも火焼祓と
いふゆゑ寺の内小祓といふひをこそし

祓風

任一の浦 鈴麻路 いたのぢり
厚れ障子 夷の亦破る

わめめのぢり 扇 團扇

善界坊も白布天も吹りともけりともみすそ
川のすゆんこりなともそのくぬきをりま
ともり祓風や山田の系たあり

祓垣

あまの枝 三輪 三宮の山
林 葛 鴉 夕附き 白ゆみ

出連

祓のつがきも都ねーちま人の足まうり
祓の河う社以よわい柑子木屏橋本ハハ
クはあまこもまゝあまの老松も垣ゆひま
こゝめかひり

祓樂

高き志 月 天津星 之ま
らつこの月 白ゆみ 九重の庭

酩酊 若戸のひりー 湯立 里松

病中後 言ふの巻 伊勢

壬生念仏湯立あり河内のはめちゆえ祓系
催馬系まうし祓の由縁なうまのまのま
ゆあけていそく社の祓系もた物うまのか
りしりか

祓代

小塩の山 龍田川の紅葉 逆祥
和方のたひさどせき 豊彦

對の松系 みののまきまひ 流石鳴

天れうんり

孔老釈の三賢おせせりけり八日中の祓代をじ
白鷲の祓代ありありも昔月不合の代もや
祓代天皇日向ふもく軍と始なりいも祓
代なり仙はもは流布せし祓の代乃ハ
坂の里とくふりあるや年とくまもいひ

神鳴

加茂 三三三間堂 浮きくま立

さすく一人 名の右塚 香焼

豆の大 蚊のし名 孝子 次子の湯

あつさ山 死人の罪つらさ 彼帳わつ風
千手の廿八粒のつかり 易日震驚百里ともて
神鳴のさし 懸係たり 冥雷とかりてうらまを
とけんせり 山雷は似たりけりさねわたり
とさいけりうかりてもも 雨人倚柱笑雷
公とも作せり 夢中よりありのつわりつら
とつらひハ 神鳴もさるわいともや 酉夢又次
うらどく天雷事りともその力とさくともか
やまき 流石鳴

甲

四天王 伶人 湯半のそほ 皿

貝山 瘡 降参 伊賀越

家法 蟹 虫 小田原

祭礼の供のおまきうけりとも 鞍馬寺は冥
空にありあけりとも 甲らさひてゆきか
うともさし 教習たり 甲とさね 細まけ
に教虫とさつめ 附り

刀

護 花か 苜蓿 旅陣 奈良

女房のいぬ 智入 葬礼 踊

平地 徳科人 備系 肥系

法眼の杖松明の附刀と撥くめ 向の撥多た
ともや 神の供の上下ともさて 刀とさすを火
るの附 町人の刀とさすめ 教習をの附 刀
とさすて入

鐘

港 卿 大織冠 海去 松入 月

大工 蜻蛉 草柴 火用心 ぶい

農人

はらの療治も徳も 奈葉も七なるか ともいへ
たりとも 徳のねえ 壁の地の附たりともい

鑰

藏 鼻 室 彦 比 丘 尼 門
盜 人 秤 魚 商 笈 牧 登
釣 金 縛 繩 鞍 馬 の 福 簾 柵 木

傳 ぬ 大 師 八 幡 寺 として 經 卷 と けり けり 各 々 天 の 持
物 八 幡 寺 美 像 の 山 厨 子 に けり けり けり けり けり
徳 坂 長 絶 八 幡 寺 捨 て 道 々 けり けり けり けり けり
徳 坂 寺 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

鐘

遠 山 寺 尾 上 行 ひ 松 葉 の 奥
わろ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

経 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり
名 抄 軍 踊 猿 人 念 仏 嵩 山
番 匠 村 猿 刀 火 事 鈴 文 三 寺 寺
祇 園 精 舍 平 島 院 法 水 寺 丸 盛 寺

遺 愛 寺 石 寺 後 教 本
善 待 問 者 如 種 鐘 叩 之 以 示 者 則 小 鳴 叩 之 以 大
者 則 大 鳴 云 云 兵 以 鼓 進 以 金 退 注 けり けり けり
人 八 幡 寺 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

後 漢 盧 植 鳴 鐘 食 鼎 鳴 鐘 食 鼎 鳴 鐘 食 鼎 鳴 鐘 食 鼎
祇 園 舍 の 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘 乃 鐘
と けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

カウ

弘 前 行 人 の 腕 風 呂 巾 子
床 兼 の 湯 多 府 袖 客 坊
袂 崎 ね 足 卓 満 坐 連 寺 著 寺 寺
入 院 施 餓 鬼 坐 禪 墓 所 橋 の 上 々

古 人 ち ち ち

み けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり
一 炷 烟 中 得 意 九 衢 塵 裏 偷 閑 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり
志 握 蘭 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり
あ れ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり
穢 香 けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

カ 二 四 五

山

旅人将人氏士舟長早乙女
山縣 文城月
勢死 梓 鈴木三郎 東坡 山前
落人 踊 虚喜 偽 餅 食 色
乞食車 穿人 巾 中陰 眩
目 石灯 菟 松茸 唐人 作 海 来
法 宗 雅 波 女 五器 等 暑 日

近江 市女

謝天運好戴曲柄笠
房方ふのりは
安宅の雲うら
この笠とさうら
のりは笠とあつ
蓑笠とさうら
結交盟日卿
揖足抱の
傘
元院寺
入院寺
光り抱 飽高 若僕
かきまひ
とゆとさ
履とふ
嫉妬
約巻
湯杖

鉄輪

光り抱 飽高 若僕
かきまひ
とゆとさ
履とふ
嫉妬
約巻
湯杖

冠

文字 仕
衣の毛 刀
女
つり
公主
て
あ
位
が

女
つり
公主
て
あ
位
が

冠なり論語、服周之冕と云

狩衣

丁半袖袴 兼束 袴系 袴
やうの花 袴 袴 袴の袴
白柳子蛇

狩衣のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
狩衣のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

帷子

カタヒラ
金ねり子 具足 入権 帯
湯 風呂 葛蒲の草履 几帳

帷子のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
帷子のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

紙袍

夜叉袴 佻人 堂人 貧僧
清水坂 さうさ 縁 土家 通
わ川 仙臺 籠舎 と食

紙袍のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
紙袍のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

肩衣

カタギヌ
いふの肩衣 夜のお 門徒宗
あまの肩衣 袴 袴

肩衣のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
肩衣のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

肩

いふの肩 夜のお 門徒宗
あまの肩 袴 袴

肩のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
肩のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

肩のすそとてきりてあはらさそやゆらかり
肩のあまの供はふかりさぬとてきりて
すそとてあまの供はふかりさぬとてきりて
はまらりやあまの供はふかりさぬとてきりて
とゆらかり

肩脱

差が 須漢 修羅の 始

冬つら 水 菩薩 ありて日

四老廟詩南軍不祖左辺袖四老安劉是滅

劉と作ら王孫賈八因王の仇と報ぜん

中てあつらとせん者いあさうあけとり

くれはまよさうふりの四百人と二人男と

ひくわらうとぬぼとま孟軻素とらん

肩とぬととととと

垣間見

美田の里 あまめく人 生たれ人

碁業の戸

竹丸のうらや娘とをまうりらうらうら

垣

宿 家居 種 終 海 終 社 庭

家 房 号 廉 社 社 本 田 畑

木 権 魚 へん さげ 石

自 蚊 帳 あり 中 へん へん へん

多 居 三 界 ね 雲 盗 人 の 乃 志

鞠 紺 屋 お 髪 青 け け

虎との横右近の極も垣ありあり物名の横

門

馬車 物とあり 田 澤 餅

礼者七乞食者嘆 後漢 劉向

塔離 カ ともづゝいしあやうら門柱けあいふをまて
すませりわらびりかふもつづりももる門
よ市とあふぬ。朝去而晚來則吾倚門而望と
りいふとあてし

門立

わらふ

花女 辻口乞食市夕凧
松ざり酒をりあむ眼

旅立人のるハ川をそあざりし 榊子候門と
ゆ去來の群ももる門もまぬを盗人の秘なる
を秘ぬをともつああし。秘するつとむる門は
いし行とる。緋掛の門もりかやとる

門本

せとくふ きのりま

旅軍 南 弘 相 務 持 場
籠 梅とあて軍の門かと秘つとるこり内
裏や六角堂をそまふとれハ一甲つら
つも門かといふ。盛んがうれはよをせはせ門
かといふ。はら後のらりのあ首途かり

尾

妻 祝 踏 池 堂 の 五 石 花 壇

欲文忌詞寺 称尾膏 長恨年 尾
冷霜花重とくけり竹樓記よ竹土破之新
去其節用代陶尾とわり。銅雀臺咸陽宮
切くの尾はぬふと今ももる

土器

仲火 皇居 風炉 墓り
黒焼 宋女 鉢布 わらひ

旅立仙ありささ雄の紅鬘

わらふ系 湯系 細枝 湯瓶

正月よ土器をそ秘し。佛沙とそあつる
まふまふつ用よりらゆら。佛巻の松の枝よ金
銀の着りよとら月星のどく。牡丹知り
他ろりけとをそとら。時さうさねらり
くらせげとらあり

純

花酒 酢 藍水

司馬温公 華巻 鯨肉

ちかめより月と入てらとらひ

かの... ともあり 胡蝶...
 の... ともあり...
 漢陰有... 吾不知抱...
 花入... 天... 柵...
 窓... 窓...

掛金

額

文... 寺... 華表...
 風... 古... 古...
 ... 蓮...
 ... 行...
 ...

樂

學... 萬... 軍...
 大井川... 宇... 宿... 庵... 丁... 天... 人...
 ...
 ...

壁

耳... 豆腐... 落... 書... 儒... 玄... 陟...
 ...
 ...

電

...
 ...

日月の庭

氏の家よりいよほどいふなりとのありき引鶴譚
丹竈聽松保古琴作より竈將軍より丸随者と

格子

堂宮 竈 破風 天井
格のありお 傾城 窓

みるくしのごうごうとふとふとふとふとふとふと
よわとよわとよわとよわとよわとよわとよわと
いかりいかりいかりいかりいかりいかりいかり
らせらせらせらせらせらせらせらせらせらせら

碓

カラウス
タラシの石 葱 餅屋
酒を

今日よりいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

亀

花 母衣 丹冥 川 鱈 魚
る虫 菜摘 干 氷 氷 氷 氷
ある 冥眼 女 薩 廣 の 治 ね 治 藤 縁

飛人形 三つか 鶴 堂 雀 山 雀
鶴 氏 密 相 牛 の

日月竈中鳥とまぐさうめやあゆみ
かきとよまじめさうもか亀のふしとそこのふ
のあつこの流よりいひひりあゆみのあつこのあつ
なりせむいひあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

掛物

床 去院 連袂 了れ心袖
衣 袂 暮 羽 基 羽 奕 論

東條の用山忘るはわづくの掛物をつけて法
人よりせむいひあつあつあつあつあつあつあつ
遊息のふりあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
いひあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

頭

太鼓つく浪ひが半トモ

心福 モヤク 糸ヒの柄 鉦炭

夏の綱 獅子 蛇ヘビ 空カラ 旗

歩ツチな瓜 五人 魚イサ 杭キ 日傭

うすうすも白くならはけりしれゆの言
けりまあなんがのうしとて徳亭のうら
ふおわりぬのうらさんより鯛の尾よう
けりまのうらふら。出門搔カキ自首ツケ 苦ツラ 負ヘ 平生
志と杜詩の泳せり。搔首カキウチ 李リ 夏と東坡よ
もえさる

いかに人取 娘風 月 病人

顔

親子 兄弟 唇立 疱瘡 法

三十二相八十種好八松の出程こけり付の地産か
りつよ付の簡魔ツル 貞マコト とや松八松の鳥よつ
とよがむきつとよ移り付とよは思え
ろいもこり

髪

ぬきぬきぬけふ 松 折の伝

いのかる 三公子 花ハナ 下ゲ 松 草履クサジマ 元

曼マン 多タ 羅ラ

髪へらりおちるもめれしひとそ
たのめたりあつあひしつを。髪長僧尼シテ
と湯王ユウ 遇ユ 早サキ 剪シ 八ヤチ 髪カミ 以自為犠ウラガミ 牲ニヒク 禱イハヒ 於森林
雨大至と六帖ムツシテ うけつと老コ 子コ 生ナ 八ヤチ 何ナニ 髪カミ ちる
るり。顔回ゲンケイ 入イ りて髪カミ 白シラ 一イツ 神功皇后松浦上
て出イデ 一イツ といして松マツ ちるあり。大衆
くつめつて女の髪カミ ちるくつめつや

髪かた

あは家 わつこを

ちの山 柳の枝切

誓チカ 言コト うまをともあふ 人妻ヒトメ かる

隠者 カクレモノ 人

親よ不見のわがを別をわいのちして利トク 髪カミ ず
るりよ。徳トク 言コト 信シン 教キョウ 盛セイ のくあ女メ ろあ柳ヤナギ 木キ の
くあ信言の信の髪カミ ちるくつめつて。尼ニ ぐつめつ
るりよ。衣イ 三サン ちとかり松マツ ちるもあかド

髪

強ツヨク 髪カミ ちる 赤アカ 子コ 内ウチ 髪カミ ちる 柳ヤナギ 柳ヤナギ 樹ツ 衛ヱ 女メ 草クサ 薈ケイ 蒲フ 萄トウ

五山叢林より、何れか長とくけわく上座。ほんじ、
先にもうて詩聯句の向もは所、交てがく、
衣の長思、三門方丈のわたりあつ、
もたやうはんえつらも。

餓鬼

非人 孟蘭盆 小栗殿 目連の母
うらへ他 後寛法於人教

千中念仏壬生念仏は地獄の神と相とせり。下
罪人もねえ。卒都の二門あ海はあ、ひらと六
なまは、一のり寺の女餓鬼中さく大杯のあも
とたわりてそのさくさく

奈れ子

夏山 なるま 田中の子 呂
小條系 本志けさ陰 下の名

素衣麿裘と論語をせり。小庵後の衣敷のは
もされわくほく、いさあ、あ、お、
袖のそく、中、か、の、
さりくほじ。納ハ麻の子の皮、く、

強盗

乱世 焼亡 餓饉
赤坂の宿

室の町いづも人き、
あゆ、唐鄭義宗、
希代、狂躡為盗於境内而更不能察、
子に

敵

職人 碁 美女 憂悩 馬
妻とあすじ 虎少の母 石少

や月 龜城 犬と猿 福妻 のろ行
怨冥 放下僧 古山宿 魚土世の狩

依後う鳩

空也上人に告めされて親の敵とてそく、
とわ、
る、豫讓が襄子、
と、
る、
と、

獵人

天河 片地 居士 赤尺 紅糸

梅 款うり 一の各

日本武尊 獵人の小夷と云ふはひん火と
つぎに光君大舟のつぎにこれに付とせし
とを唱わすはひらのつぎにひん火と云ふは
みりてせやめやハ文王滑濱よおとて太公望
よ多経心大長言公科の狩と云ふと云ふけ
ぬひと云

鍛冶

番匠 普請 和物 化新
粟田口 三条 一条院 徳希

三原

鎌倉 大和 後鳥羽院 縮荷

濃洲の園ハ古より名匠活わりの多かるも
然西洞院 森木町 今もその名を承る 楚王の夫人
鉄塊と云ふはひん干将と云ふは 鉄と云ふは
表具 羊 箔 車 毎 厭 止 子

紙

灯籠 陸奥 以平 懐 守 礼 絃
軒 屏風 袋 の かり 陸子 信 幣

おんりさき野 一 中

大沖り三郡の賦かりて是と云ふと云ふ 浴陽よ紙
あつと云ふと云ふ 救 醫 師 の 紙 よ 申 せ ぬ 也 右
まの紙は清も陰の紙もその紙のすく田島
紙よあつて納本の紙と云ふと云ふと云ふ
たつと云ふと云ふ紙と云ふと云ふ

紙袋

木菜 丁飯 麦粉 茶 菓子
塗物 虫 吸 紅 糸 十 条 の 合 紙

表紙も焼茶も紙袋と云ふと云ふと云ふ 浴陽よ紙
の袋もあつと云ふと云ふと云ふ紙袋よひんと云ふと云ふ
これらつと云ふと云ふ紙袋と云ふと云ふと云ふと云ふ
てのこもん

柏

穀 時 飯 山 中 病 具 林 飯
あつ飯 鶉の毛 立巻 御の座
餅 山 主 の 出 供

ひんがし 古巻の紙のなるはひんがしと云ふと云ふ
紙の上もあつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
わしと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
然愛 古松 之後 彫也 夫子 詞

柿

衣 帷子 山伏 静目
豫美入の薪 猿 山科 醜醜
信濃 義深 丹波 国扇

此は蟹の極みの柿の中よりわくこもつたをむきおろ
おとすぬりのこしをこつとひらば柿はたつとわ
ておどり布と滑りのうねりもけりては拭き風
おのびれぬるうもすまはわり

榧

芝草 榧 油 風呂 基盤 酒
弘像 蚊 牙 吉舟 丹波

わらわり 三宝山

五穀とてらし世に人のむとせりむきけり今も
さめぬうこの果のつらうものさみなりはなり
仏君の附存師は榧梨とすしりこ

柑子

芝草 榧 花入の口 子 草
榧 八幡 文 ね 湯 白 文
栗 榧 奥 ね 文

今流の著小大柑子とてははのさあめは
このむきかんと合なり又人の三六の着の用は
いと合なり今流の著小大柑子とてははのさあめは

檇栗

猿 奈 良 系
軍の首 兪 有 ね

目むる付おむとぬやねむり具是初の内
といはらこのつら母はらうねるもこのさ
とも今流の著小大柑子とてははのさあめは

梳

榧 等 梳 檢 細 工 とも物
うめが梳 冠 若 尺 八

山方のさるもこのつらくしははそとらゆり
とも今流の著小大柑子とてははのさあめは

梳系

七々の款 とも物
榧 つも 梳

索類とてそりつらうしははそとらゆり
とも今流の著小大柑子とてははのさあめは

海棠

貴妃の姿 鳳凰 とも物 山岸
杜子 羨 梅 楽 文

楚辭採日四派流棠無香之海棠雖好無
看正自悲吟病橋詩定惠院二株の海棠
正人老之とあると云ふはと云ふはと云ふは

楓

ふら乃山 若うろく 度及のすこ
車柳 榊松 鞠場 山
西の雲

楓の紅葉あけの西の風ありて女のしんてんを
たせぬが花のさあけのうらみそ秋のしみりに
これ卯月よりありの楓もさち通天橋の楓の
岡山忘れなきわづらあり

刈萱

カルカヤ 鶉 鷹の古 奥舟 女房花
伊勢の造宮 道心 関小野
桔梗

刈萱はとも刈萱の刈萱は下れをりまとも
とらにさるをに刈萱は下れをりまとも
刈萱はとも刈萱の刈萱は下れをりまとも
刈萱はとも刈萱の刈萱は下れをりまとも

萱

鶉 鷹の古 奥舟 女房花
伊勢の造宮 道心 関小野
桔梗

文社 歌院

みらあれあめあわらうこととれれれ
ゆとくあゆ千刈の萱う一樹あり
巻の初らあるるともあり八月秋高風怒
號巻我屋上三重葺と杜子羨よる

杜若

カキツタ 沼池 沢 草 白鷺 宿
八幡 渡 沼 沼 沼 沼 沼 沼

草

天王寺 近江 鯉のり絲
矢ひり山 花 純 緑 地 草

大根のすくれり草草あれどもあめのほりさ
精をの酒草のふれをれく。七草の何も根
あざむくてもあれとあれとあれとあれとあれと

餉

朝 朝 朝 供 供 供 旅 人 八 幡 沼
龜 成 軍 場 小 町

禁中おのり...
あひびく...
の松と...
さばら...
病人 大所傳 骨十音 連飲
時病 ありり 槓尾馬 建夜 飢饉

粥

天寒衆飢...
豆粥飢寒俱解...
粥と食する...
用るそ

糟

馬の毛 漬油 麩 紅粉
凍 雲 打 瘥...
何不備其糟而歡...
のわ...
り...
わ...
病...
山 稜 胡 楸

かじ

わ...
病...
山 稜 胡 楸

もろ

桐茶 守口 奈良 軍兵
實盛 園子 奈良系
肥膳の内も先...
い...
ま...
本...
秀...
合戦

もろ

秀...
合戦
本...
怪我 加羅

瘡

遊女 瘦子 子孫 蛙 詠のま
水...
始皇至...
あ...
瘡...
八疫病...

膏茶

雍州門 法見寺 下系 刀の室 富野

ともていめあ大石と吸と狂言ふくくわり寒天
の比はほどよひのわらわのされてはぐうし
なまぬ旅いもくらのおすれてこそあつて

形見

鏡ひの髪 葉のひやろ子 藻塩草 冠うら衣 菜摘

花摘 肌の守 帯 漆わつらゆり

かたみ 中風 扇

うらゆり形見いさよぬ方士がかつらわんさど
せりあらしの皇子の花ごころ形見とまの
くまほりとうふたごのゆきこみにそわ
あつてもやとのころりわらわさうぞく
かりゆりわけのてうどわくわさあひの
桐つゆの文衣のめぐ

律

寺の前 虹 池 谷 峯のまき とりま駒 山住 三門 楼の上

小倉 倉ね

亭軍 卒都婆 弘

公輸天下之巧士作雲梯之機設以攻宋と准
南子にも橘城へもさるもいさうりことか
なと善界もまの材うらはとさう雲梯案
紆登敷閣とも恨奇に泳せりあつてあま
のけいさうりて櫓ぞ冬の山路らりらり

河原

柴胡 まるい 芋 馬の毛 蓬 世ささい 官地 夏ころへ 檉多

塩ぐぬ保えの軍 丸大長 賀茂 茶巻

納涼 りあつ わやけり 綱つみ

平の宗盛法あの花名は河原もてささるを
とら六條河原もて死罪ひくわり後園乃
神興わらひ河原もて死罪ひくわり後園乃
念ぬり文川の河原もて髪結くほろもてさ
ささるりらりらりらりものりらりらりらり
りらりらりらりらりらりらりらりらりらり

川巻

榎ゆい 太鼓 鼓 入る鳴 櫓と押舟 名鶴のし

知死期付しハ川をたぐりて死せりといふは
世に知らざるの徳なりといふは
いづれもいふ平家の軍兵の敗軍せし
名もの相もなりまことぬれおれしものちりも
わかれなり

将

紅葉橋 鹿 鹿 松茸 雉子
三川 ね束 魚土 春日野 交野
宇多野 奥野

魯西狩獲麟時なりす麻よりとてわたり
田島のみともや民ともいふ田獵しる人も
子も赤王といふありなり宇治へも世にいつと
の流ひたる逸事のみありすなりぬれぬるも
つとて徳つとわたりしをわびりたりと大和御
よかりありし初なりともは酒のきやまや
あふりたりといふ惟喬なり市邊皇子狩場
と射るるなり

将の伎

驛路 馬の上 治る國
猿抱 取酒 秋文
なつとひる 蕪夫

巡狩ハハの治れとありめうんとあり今
國大名のわいもなりともは酒のきやまや
畧帝葛城は狩しありて一事に非ん
又ゆふとあり

風

雲霧の向 ぬれぬれ
氷解 氷解 氷解 氷解
満波 わる浪 福くまぬ松馬の耳
たけふ松 敗毒散 虎扇舟豚
立秋 みろく柳 暑日 天狗 無常
君子の徳 雲の卦 埃 火の用心

馬

東の坊りぬれ幸く四月八日は風とゆ
てんとすもやまはしとや橋の海へ入る
て風のやまはしとや橋の海へ入る
子ハ風はのりぬれなり風とわいぬれぬれ
なり風はのりぬれなり風とわいぬれぬれ
とめつと入るなり

風と火

菊仕舞 秋の田舎
花籠 芭蕉 燈

秤目鞠 産屋 屯子 病人 釣舟

蜂の巢 席と紐 走矢 関の舟

獵師 綿帽子 火子 舟

わひ衣深緒とむす日くりとてうくれら
ぬま子にらひひげまーさ物と遊ばわさ
帰るにやうやうさわかさる風ひくま
らるるらととと釣をぬさひはゆらう久大海
のまをささひわさひさひとてうくれら

篝火

秋の庭 月まき 秋 鶴舟

夜すまふ 暮市 禁庭 独 矢敷

かると火の消るるあつとほらとかり右近めと
りつをささるふとまき富方の巻物も巻いた
さーとる 鶴はくとわまのまもさうらり火乃

かのかにわさるんさう下かりのさう月十四日十八町中
の巻物と巻物わらしてたし

歌舞妓

門 菩薩 淫人 妻秋

四葉河原 五葉系

魚月五葉倍の人の遊ばるさう風流とつ
してあさりさうさう女のわさなりさう今
の男さしども女ままらり女とてさうま

奇仙

拜殿 亭 屏風

中古大儒さうの撰とて詩仙武仙とてわり
かも女奇仙わり新奇仙わりさうゆかふ
さうさあ他のさうさうおんをさう類の代りも
かあゆさう

上下

雪隠 鞠装束 夜の雲 夜を流河

人丸赤人のさうにたんのわさる赤人のさう
たんのさうと今の上より上より下より

られ下上はすのそと能くしの何と所悪
上母以使下と大學の何と日本記の神代のか
このまゝ記ありのまゝとてあるとや

カキ一ケ 軍すまふの奇合基カキね基
公より 鷲合トリカヒ的天悟ハツキ突

克己復礼と仁道のすめなり破軍星の方
うんぐのゆるい軍法のため南齊の方をも捕ま
員も空海カラノミの守教モリノシよくこれよりあさのあひあ
りらるり

カキ 武者 落人 君と知りぬ軍基
あより 奇合するふとこの下

荷揚ニモキ

とても修飾の積されのりりめとてよとめと
さうらとていじとて集るべしとわけるのいよと
の事と胡步行漢野漢駢胡步行と遊仙
窟のほわりわらわら馬武者とをよと
いさるぬるいさるをめてあきさけいりあ
あつらふとさむいりらるりそらとよとさるハ合
あよかたり

カウ 天王寺 室 栗田口 けり豆
盗人あつら 病人鷲

形とてふと女と庚申一ゆらぐに松風入夜琴と
ささるるそととのね小琴の松風かあじいりまの
をよりあつらふとあつら拾遺にも月頭と庚申あれ
采穀サイコクやすとさるるさるり朗詠と庚申の終る
とぬく事とあつらと云

学問 開東 八年 十五の春 山寺
窓の内 兼拂 見入院 賢者

商人公家

行有餘力則以学文ハ論語と学問之道無他其
止放心而已と孟子にいりやうひのあつらと
そのいをよりらとあつらとていふ派と中將かり
カタ、カヒ 條相 中川の宿 ね端の萩
相持 舟のりさあふ

尾縫参差と安房宮賦にわい雪層花頼参
差是とと恨弁かり陣小念のあつらと
てあつら在中將のさるるあつらとわらわら
秋とてわらわらあつらかり

海道

旅籠屋 船場 徳倉 辻堂 乞食 捨りもち
町 飛脚 一里塚 馬借 並木松橋
海舟 東国 西国

落人 日ざらぬ 須川 かくひらき 幕屋 海老さ
ま かつら 昔の海老須川 へん 柳の精 大
津 海道 伏見 海老須川 車 といへ

霞

花の岑 夕の定 子守の 春 野
あて 絶 喜 風 静 舟 用
天の橋 立 仙人 一の山 盆 遠山
細字 目 障の書

洞霞 龍素練 と 作 せり 仙人 へん 合 合 合
と ちや 秋の 日 暮 日 暮 日 暮 日 暮 日 暮
後 殿 於 火 とも 泳 せり かつら へん 松 浦 の
仲 へん へん へん へん へん へん へん へん へん
り へん へん へん へん へん へん へん へん

寒中

茶 喰 声 つふ 酒 造 紅 粉
門 垢 離 刀 磨 餅 早 梅

水仙 茶 一 二

寒 巖 四 月 始 知 春 六 山 中 ぬ へん へん へん
と ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや

隠家

落人 盗人 山の奥 市の中
角の浄土 梅 ちや 結 ちや 奥

仙女

貧 乏 ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
と ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや
ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや ちや

掛

繪馬 障の緒 金銀 蟹の巢
馬 猪 たち 墨跡 加衣 紗衣
花生 帆橋 結 すす 糸

目系 鑿羊、護、階、天蓋、華鬘

二道 謎、額、きりぎりすの母衣

山王廟の夢日記のうろろ王の飛車も
勅勅のふり舞くやとくや。季札が劍とさけいへ
徐君のあそび。玄冥俗者の衣は格うかり。と
珊瑚珠、鉄網、まうり。因幡某師も網かき。と
さか。日月、天、うろろ、石橋、うろろ、さか、うろろ

饒

佛前、神輿、云、糸、商、每、文法、
山、洋、太、刀、糸、具、さ、の、う、ろ、ろ、棚

舟、高、座、金、物、も、道、具、左、義、長、
本、の、多、分、錦、成、宵、書、院、床

子夏曰少人之適也必死。とあり。能使西施掩面、
遍燒嘔、と、仙、女、と、あ、さ、う、ら、聖、天、の、棚、と、さ、ら、い、
亡、者、と、さ、ら、い、と、さ、ら、い、楊、国、忠、の、氷、と、さ、ら、い、と、さ、ら、い、
を、り、の、ま、い、娘、の、ま、い、ひ、の、り、と、さ、ら、い、と、さ、ら、い

掲

下、人、さ、ら、い、さ、ら、い、版、窄、人、落、人

腫痛、抱子、
も、に、い、る、お、お、い、わ、く、と、い、れ、ば、なり、と、い、
た、く、は、ま、ま、い、わ、り、の、ま、い、り、の、の、お、お、い、わ、く、
居、る、よ、か、へ、い、り、て、運、び、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
お、お、い、わ、く、と、い、れ、ば、な、り、人、い、れ、と、い、つ、い、つ、
こ、ろ、び、う、ら、お、お、い、わ、く、と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、

び

腰、い、び、指、落、人、科、人、を、知、
世、の、鶉、の、計、浮、萍、の、魚、
榎、木、ま、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
信、於、久、屈、之、中、而、用、於、既、定、之、後、と、蕪、軒、も、り、と、い、つ、

此、言、右、指、の、人、と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
本、の、中、小、大、塔、ま、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
の、下、ま、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、

新

主、の、恩、親、の、悲、慜、月、日、師、通、徒、
雪、残、お、ま、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
繪、像、炎、天、刀、刺、刀

明月、ま、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
氣、と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
く、ひ、と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
と、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、
か、ら、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、い、つ、

假初

秋の田一夜妻 竹ぬわの葉
笑 草の露 花の宿

かりそらのまきうへにこころのねさうねあしといふ
てき死々人村毎のやとりはあつとさかりひとをり。
一旬片言のまきうへ生死の海とこえたるもかりそ
めりまきうへ陳勝うりとをりて函谷関にや
かひ伏羲一畫と作て天下の理を通せり

ゆり

馬かひごころうらんとやう 蜘蛛
浪花物種 年舟舟のあ冬字

讀物 葛の糸 古の花根弓

五斗の米のたに屈せりしハ例明なり。橋柱
ちりひそゆじとこゝハ相如かた目ぬとつ
かんとつり川あまきりあはくりにあつとつり。燕舟
太子のゆりハ移のたつとつり十九年以経て改
さるハ燕武りたつとつり。蒼苔路滑僧帰寺と

替

いらは声 四季老のすこ 人心
齒 墨漆の袖 川の漱 井の水
宿直 ねの場 馬つぎ 踊り 園子

老の川の漱 人の負 毛の毛家
替

束のせもは信しそつとつり。あつとつり。あつとつり。
ハたつとつり。西行のよじにあはるのよじ。遍鶴
り醫療ハ國にりてかたつり。徳信ハあつとつり。今
よかつり。紀信ハあつとつり。命にりつとつり。福あつ
新於たりつれハ平安城のさあつとつり。

か

瘡 耻 双六の賽 琴 落葉 虱
納豆 醬油 作ル てるごう 衆物
繪 經 壁 虎 子 猫 蚊 の ぐえ
猿 肌 帶 縞 炭 うらあぶ

内則 疾痛 苛養 而 敬 抑 搔 之 曰 孝 弟 の 事
く親と送ら附興とつり。子なり。風呂の内そは
垢とつり。蚊のつり。ひり。蚊ハあつとつり。耳は垢のこ
まわりつらつらつり。

詰

浄穢 穢 平家 みる子 謡
梓神子 盗人 遊女 夜長
縁辺 一向宗

所旧跡ハ不の老より人よく志すなり。世ののり
わたりハも後大後増鏡なり。用性ノ具松を
縁起と云れり。商人ハより舟てし。船ハ
浦山と云るなり

かざりあふ

師之筆 鷄合

碓 中風や、 童
いらのりり あり

又兼風注掉頭者於事不可之状莊子掉頭
日吾弗知也商相の福ぐんのなるんぬらうぬ
る。仲人口の志おせともおのりらうらうら
うらうらや

鶼

茶 新茶 鶼犬 伽羅 墨
梅 生魚 猪

鶼 狸 非と大象の如く知らうといふ東を
さゆく。獨倚寒村 鶼野梅と他はる。麝
香のさよわると獵人らうとそと鹿茸と鼻
まわてくわぐらうらうら

唐

猪 くれ 鼻 錦 後 曇 詩
小茶 破風 法 寺の燈 揚 茶 深

あつてひてうらうらうらうらうらうらうら
ゆひてとかまなり。筆道は唐やうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
なやうらうらうらうらうらうらうらうら

もろ

送 冬 の けり 茶 碗 人 参
胡 柿 香 相 人 法 利

山の碩学の夜とあり。豆腐がうらうらのりら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
明の始なり

金山

傾城 佐 後 の こと こと あり
感 陽 宮 市 銭

吉野の山嶽を金山と云うまればうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら

前漢の鄧通は銅山と

下されて錢と結てとあり。銀山鉄壁八禪話の語なり

名所

神山

歳 榊 蓼草 りろろろ 榊柴

みろと卯の花 櫛の糸栢

かきまひひくけのふろろ 乙女子 中幸

三の位 天の岩舟 小松原 ことれあり

花の盛 二尋の菊の下あり 松虫 鶯

玉核 松のまげき 老世 秋 冬 川

森の下あり 岩ねのひろろ 春の松の月

秋の松の月 ことれあり ことれあり

同社 神川 河原 祭 四月中 酉日

賀茂

競馬ハ 五月五日 足採 五月一日

だんのもじ 車 念佛 確 一言の林

六頃の松の松 秋の柱 大豆のやろ

片畠 岩中の林 橋中の林 八後の畠

岩倉山 狐坂 橋井の里 朗詠 谷 所

澤の小川 女ね山 有巢川 山祖の林

別雷林 松の侍 ねろの 謡 林

白神の夫 ねろの ねろの ねろの ねろの

行幸 車わろの 夕稜 女院 ころろ

姫小松 谷のまじ 瑞籬 りろろ

菱林 わろの ころろ 川 十のり花

標の木

鴨川

水底の月 ねろの 鮎 千鳥

夕のまじ ねろの ねろの ねろの

かきのゆきで 山ねの神 月の都

六條 ねろの

みろの川 ねろの 空 雲雀

片畠

ねろの村 立か山 林山 ねろ

ねろの ねろの ねろの ねろの

ねろの ねろの ねろの ねろの

蟬木綿たしむ早苗櫛の上あき
櫛わくか

大和国片栗山 着菜 紅葉初の本馬

繼子麻旅人達磨餓あき人

鏡山 同 山しるり矢君
大文人

近江国同名有峰野 くらひる身 紅葉

系うきをせ 老林の山室あきる海

何ぬとあわりいさくきよき

郭公 月りきこきのおた

笠取山 同 紅葉何ぬ岩居 溪のぬ
炭焼山科 醍醐

桂 同 河渡里ええ 大井川 髪後祭

月魁かき火嵐山 沖灵祭

久津 伊勢が家法輪も 清涼も 龜山

天竺寺 衣代の古道 芥川 とうせの湯

いさかの梅のえ梅津 向のぬ林

松の尾 西方寺 糖 照月 龜堂 西院
山の肉

龜山 同 滝 峯 龜の尾の山トモ 岩杉の松
瀬茶滝の白糸 衣代松川子片

大野川 柳葉 清滝 宿の池あ 万代

すまの系 瘡の毛衣 秋の夜の月

みよりの洞 梯 瘡の林 花の浮木

麻森山 同 泉川 みの原 ますか 常の
郭公 神の同相坂 河風彦

紙屋川 同 我黒髪 鏡の影 瀬 ねまき
小野平野 西の系 浅石 ち橋

春日 大和山 野原 杜里 古郷 神嶺
社 祭ハ 二月上ノ申日
十月廿七日

越後の神宮若菜とみさ原麻作伝
さるまゝ山若菜わりのりね奈良
新の徳若菜氏羽買山猿沢の池
南園堂東大寺奥福寺法林系舎
明恵寺居坂裏の橋佐保川麻塔
誓願寺水登都の南山の菘浪時多
釈迦如来浮雲の文柏木の社三笠山
業平の垣見弟のそいふそい君
埋水菘栗蔣春約女島若菜山
カツラキ 同山嶺付高嶺 石橋神寺倉川
葛城 久米の橋 天狗山 山即役の行者
さの白雲寺まき柳 紅葉寺とらふ
さる山橋とらふの寺二上山菜つが
新田わりの川流みりり夜のちきり
さのさるさる さまの場 一ノ野
さるまゝのお池

神南備

同山岳河内河内付里杜
三室の岸 三の森

竜田三垣山 紅葉常盤木
石清少林系若のゆふの向の綿
蛙山吹時多

交野

河内山野 野小野原里 天の川
維子らぐらぐら鹿鈴虫

さる淵いなるの嶽 渚の橋 志れす
鷹の鈴なる尾の巻 山草 霰雪
みりり

伊弉諾

白嶺庄 さるの中山 山の尻
白をら 若神月 弁山
山梨の畷

鎌倉

相模山里 若く畷 若く文八幡
雪の下山の月 小袋坂 建長寺
寂明寺 若光寺 梅谷 假粧坂 鯉

蘇谷扇ヶ谷極樂寺 切通 洗の井
星月夜 篠目谷 稻津川 大佛 腰越
月影ヶ谷 砂の口 唐ヶ原 日蓮の石
珠教ヶ谷 松由井濱 法花堂 大倉ヶ谷
二階堂ヶ谷 柄栖の天神 校本教も
長ヶ谷 金沢村 六田濱 筆捨松 古
商人出雲のま 持立市 柴胡 紅葉
合戦 刀の作

處園 武蔵 雲路の厂 東路
美の若紗 月

麻湾 カシマ 常陸官神崎浦 源 後廣の祓
志ヶ原 杉原 杉原 誓 石のおき

幸湾 カラサキ 近江 夜の雨 一松 誓のころ根
祓の由 舟 山 幸 山 根 ちえ人

望白 カタタ 同浦 濱沖 祭ハ 四月初 色白
漁火 千鳥 鷺 芦 落鴈
海舟 捨舟 沖津浪 細川 比良小松
和尔 海舟のうけ縄 小糸鮎 すー

神道山 カミ 伊勢 岩戸 内介の文 秋
いす川 注連縄 小車の錦 風のみ
初巻の文 巻の初日 山田のま
竹の初 度舎 柿系 百枝の松
文川 月鏡の文

形見浦 カタミ 紀伊 妹ヶ谷 小巻 爲
まろ 狐 藤 塩 菜 浪 松
うの 貝 わりの 釣 舟 表の 馬 子

三雨の月

高野 同和乃 月牌 月牌 行人
聖煩れ墓 油煙の墨蒜

来門 菩提子 六十の糸かろの宿
忌草 樹 白骨そり 髪 漆 只 入 瓦
大塔のま ねがらん

△花言のあまの

金山嶽 大和みりの 影
紀の川上 法のり 火

まのじりん

多推 徳前 宮 浮 活
り かく

名板 ちり 徳前 宮 浮 活
あ ね ね ね ね ね ね ね ね

河内 年あも 布さる 瓦の墨
山城 同右アリ
大和

あまの

河内 木綿 袴 楠氏 廿五
金剛砂 高安の里 交野

富の小川 神の山 天の川 渚の系
秋篠 金剛山

甲斐 駒判金 題目石 源氏 為延山
生沢川 白巖 露の郡 美登山

上総 鞆 紅花 鯛 鮑貝
蟹 蛤 目がら

上野 鼻 漆 盆 盆 石
利根川 鯉 碓氷山 名 山

佐野 杉 常せう 宿 板

加賀 榎原 綿 二衣 袴 襦 系
鼓の皮 葵餅 菊酒 白山

竹の浦 越の石 根 藤系

俳諧類弘集卷二 一



Handwritten Chinese text in cursive script (caoshu) on the right page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid. The text is enclosed within a simple rectangular border.

Rightmost column: 上坂博
Second column: 他
Third column: 所
Fourth column: 仰
Fifth column: 馬

